

新しい図書館整備による挑戦

～図書館を活用した地方創生～



桶川市教育委員会 図書館長 やまうち めぐみ 恵

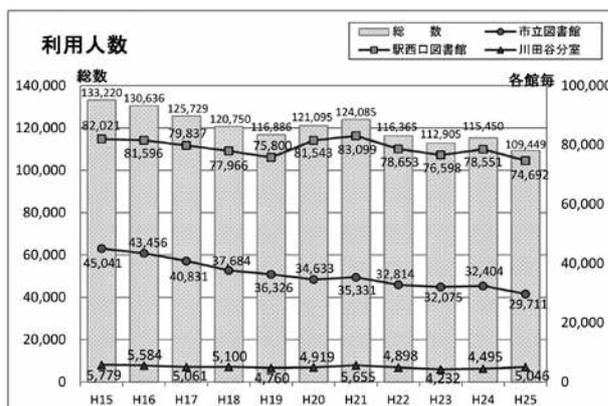
1 これまでの図書館の状況と課題

桶川市（以下、本市という）の駅西口図書館は、JR桶川駅とペDESTリアンデッキで直結しているショッピングセンター内の4階に昭和63年にオープンしました。その広さは608㎡と、決して広くはありませんでしたが、利用者・貸出冊数共に、本市では最も多い図書館です。

しかしながら課題もありました。まずは閲覧席が少ないこと。ゆっくり滞在していただくというよりは、貸出を中心とした図書館として機能していました。また、書架が多くないことから、配架図書冊数に限界があることも課題でした。駅前の図書館という好立地にも関わらず、利用者数、貸出冊数が減少傾向にあり、図書館サービスを見直す時期にきている状況でした。

図書館は落ち着いて本を読む（知識を得る）ことができる場所。図書館の役割は情報（資料）を収集・保存し、利用者が求める情報（知識）を提供すること。現在も、そして今後も公共図書館としての基本的な役割は変わりませんが、年々図書館の利用者数・貸出冊数が減る中、図書館と本に興味を持ってもらうため、定期的な児童向けのおはなし会の開催や、季節ごとに館内の手作りの飾りを工夫するなど、来館者に喜んでいただこうと自分たちにできることを行っていました。

【利用者数の推移】



【貸出冊数の推移】



このように、来館者の減少に直面していた駅西口図書館が、平成27年10月、同ショッピングセンターの4階から3階に「OKEGAWA hon プラス+（オケガワホンプラス）」としてリニューアルオープンし、市内外を問わず多くの来館者が訪れる施設に生まれ変わりました。

オケガワホンプラスは、図書館面積を約2.5倍に拡充し、蔵書数を増やしたわけではありません。図書館と書店を併設し、イベントスペースを挟んでカフェとリラクゼーション店舗を一体的に整備することで「図書館と書店を融合した新しい知の文化交流

施設」として位置付けております。

【オケガワホンプラス入口】



【オケガワホンプラスロゴ】



2 事業提案 ～たった1年でオープン！?～

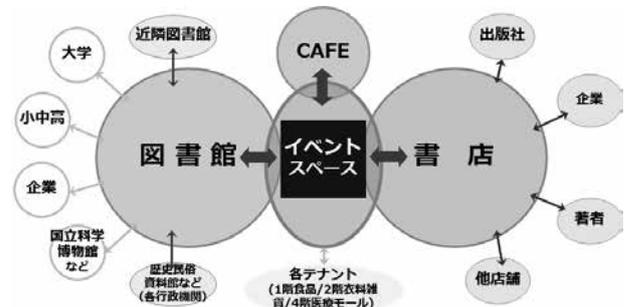
施設のリニューアル前、本市の図書館は、小規模な図書館が点在している状況であり、平成23年に策定した「桶川市第五次総合振興計画」において、中央図書館の建設構想を掲げていましたが、その実現については、場所や財政面など、課題が山積みでした。

そのような状況の中、平成26年10月にビルの所有者¹と大型書店²を運営する事業者から共同で今回の事業提案がありました。この事業内容は、図書館と書店を融合し、一体として整備のうえ、本市も含め3者で運営するというものでした。しかも1年後にオープンしたいとの申し出でした。提案当初は、事業内容もそうでしたが、たった1年でオープンしたいという民間のスピード感に対して、これまでの行政の感覚では「本当に計画通り進むことができるのだろうか」と、不安を感じたことを覚えています。

そこから「本市がこれまで取り組んだことの無い

事業を1年で実現させる」という課題に対して、教育部だけではなく、市が一体となり「オール桶川」として取り組むことになりました。

【事業提案イメージ】



3 指定管理者制度の導入

提案事業については議会への説明を経て、協議を進めることになりましたが、課題もありました。そのひとつが提案内容にあった指定管理者制度の導入についてです。これまでは窓口業務のみを委託していましたが、本市にとって図書館への指定管理者制度の導入はもとより、民間企業の指定管理者自体が初めてのことだったからです。

図書館と書店の融合という提案の中で指定管理者制度の導入も併せて提案されていたことから、公募はそぐわないと判断し、提案通り丸善・図書館流通センター共同事業体を指定管理者として進めることとしました。

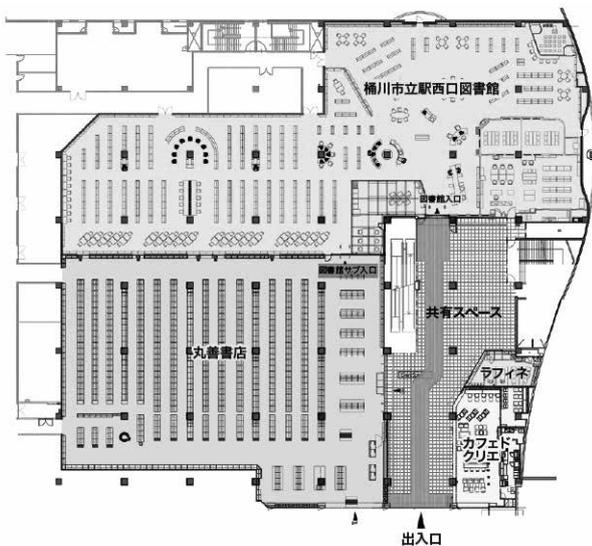
図書館に指定管理者制度を導入することについて、当初は慎重論もありましたが、議会や教育委員会、また図書館協会をはじめとして図書館で活動いただいている複数の協議会に対して丁寧に説明させていただいた結果、最終的に「民間のノウハウを活用し、利用者サービスの向上を期待する」という意見でまとまりました。

実際に今回指定管理者制度を導入することで、開館日数、開館時間が増え、司書資格を有するスタッフも多く配置され、レファレンス強化による利用者サービスが大きく向上するという結果となりました。

4 書店と図書館の「融合」

書店との融合について、先進事例を研究するというよりは、本市にとっても提案事業者にとっても初めての試みであることから「これまでにない、我々だからこそできる図書館と書店との融合」を目指すこととしました。図書館・書店・カフェとそれぞれの運営主体を独立し、スペースについても区分けをする代わりに、全体的な内装に統一感を持たせた空間づくりにこだわりました。例えば、図書館と書店を直接結ぶ出入り口を設置しており、両施設は自由に行き来が可能となっています。また、間仕切り壁に大きなガラス窓を設けることで一体感を創出し、お互いを見渡すことができるようになっています。

【オケガワホンプラス平面図】



【間仕切り壁・ガラス窓】



図書館整備については、まずは利用者アンケートを実施しました。その結果を踏まえ、従来の閲覧席が少ない貸出型図書館から滞在型図書館へのリニューアルを念頭に検討を重ねました。開館時間と開館日数を増やし、幅広い年齢層に安心して快適に利用いただくために、子供向けのスペースを広くし、ふた付きの飲み物を持ち込むことができる閲覧席を設けました。設備としては、衛生面が気になる利用者のためにブックシャワー（書籍消毒機）を設置し、社会人向けにパソコン等に利用できる電源付きの席や無料Wi-Fiサービス等を開始しました。

また、書店で図書館の本を、図書館で書店の在庫を検索できるように、それぞれの施設にお互いの蔵書・在庫を検索できる端末を設置しています。これにより、例えば書店で購入した本の絶版となった関連書籍を図書館で検索して借りたり、図書館で貸出中であった本を書店で購入するなど、お互いの強みを活かした利用による相乗効果が発生しています。

【検索端末】 ※左 図書館用・右 書店用



5 新規利用者の獲得に向けて

はじめに申し上げましたが、図書館としての役割が変わることはありません。ただし、図書館の今後の課題のひとつとして、新たな利用者の獲得が挙げられます。これまでの本市の図書館は、利用どころか一度も来館されたことがない市民の方もいらっしゃいます。また、近隣自治体と図書館の相互利用

を行っています。そういった方に足を運んでもらい、リピーターにつなげることが重要となります。

その課題の対策として期待しているのが、今回オケガワホンプラスに整備したイベントスペースです。集客イベントや各種プログラムを実施することで、施設全体及び地域の活性化を図るとともに、近隣の大学、公共機関、企業等と連携し、市民の方に様々な「学び」と「気づき」を提供することを目的とし、イベントの企画・運営を本市とビルの所有者と大型書店を運営する事業者の3者による協議会で実施しています。

書店との相乗効果に加え、メディア等で取り上げていただいた話題性もあり、来館者はリニューアルオープンから1年で延べ72万人と、大幅に増えました。また、リニューアル後の新規利用者登録に関しても、市内に限らず市外の方の登録者数も多く、注目されている施設であることを実感しています。

利用形態につきましても、従来はほとんど目にすることがなかった学生による学習席の利用や、親子連れや仕事帰りの社会人と思われる利用者も増え、利用者増だけでなく、利用者の年齢構成にも大きく変化が感じられます。

【イベントスペースでのイベント開催状況】



【図書館内の様子】



また時間外の図書の返却に関して、従来は市内3箇所の図書館及び分室にブックポストを設置していましたが、駅改札前、市役所本庁舎（現在は仮設庁舎）、市内の大型ショッピングセンター内にある市施設へブックポストを増設することで、図書を返却しやすい環境を整備し、利用者が増えたことに伴う利便性の向上にも努めました。

6 図書館と地方創生

本市のほぼ中央に位置する桶川駅前という中心市街地において、オケガワホンプラスは「知の文化交流施設」として地方創生に寄与してまいります。公民連携事業として、民間企業である書店と、公共施設である図書館を併設することは、新刊やベストセラーを中心とした在庫を持つ前者と、書店で取り置きがない書籍や高価で専門的な書籍を保有する後者とが併設することで相互補完・相乗効果が期待できます。

また、図書館では、多世代交流スペースとして、拡充した児童図書コーナーに郷土資料コーナーを併設することで、世代を越えた交流を生み出します。中山道宿場町・べに花の集散地として栄えた本市の歴史等を用いて、地域の高齢者が子ども達に本市の歴史や文化等について読み聞かせを行うなど、郷土愛の醸成と多世代交流を図ります。

さらに、書店と図書館の間に設置するイベントス

ベースでは、民間企業とのコラボレーションであることを利点に、感度の高い情報発信・文化振興等を図るイベント等を実施することで中心市街地の活性化を促し、賑わいを取り戻します。

オケガワホンプラスの取組については、本市の魅力を情報発信し、まちの認知度を高めることで、移住定住人口の増加につながるものと考えています。

脚注

- 1 株新都市ライフホールディングス（当時：株新都市ライフ）
- 2 丸善雄松堂株（当時：丸善株）